

熊本市町内自治会組織の 運営に関するガイドライン

04 持続可能な町内自治会へ 編



4 持続可能な町内自治会へ 編

- 町内自治会に入ってもらおう・・・ 1

- 町内自治会に入ってもらおう
（集合住宅編）・・・・・・・・・・・・ 4

- 活動の参加者を増やす・・・・・・・・ 6

- 「みんなで」から「後継者」へ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

- 町内自治会の合併について・・・ 13

4 持続可能な町内自治会へ 編

町内自治会に入ってもらおう

・多くの参加が自治会運営に不可欠

近年、町内自治会に加入しない人（未加入者）が増えており、都市部を中心に大きな課題となっています。実際、熊本市でも町内自治会への加入率が低下しています。

町内自治会は、多くの地域住民が参加し、合意することで、地域のことを決定したり、地域活動や運営を行うことができます。

未加入者が増えると、地域住民の総意として意思決定をすることが難しくなり、自治組織としての本来の機能が十分に果たせなくなります。さらに、地域で生活する上でのルールやマナーが守られなくなることや、活動の協力者・理解者が減り、地域の安全やきれいな環境が保てなくなることも考えられます。

多くの地域住民に町内自治会へ加入してもらうことは、みんなで地域をつくっていくために非常に重要です。

・目的・活動内容を伝える

町内自治会について、少し前までは、一般に「地域に住んでいれば加入するもの」という認識がありました。

しかし、最近は「活動内容や意義に納得できなければ加入しない」と考える人も増えています。

そのため、加入を呼びかける時は、「入るのが当然」といった一方的な姿勢ではなく、町内自治会の目的や活動内容を伝えながら町内自治会が地域でどのような役割を果たしているのか分かりやすく伝えることが重要です。

例えば、町内自治会は防犯灯やごみステーションの管理をはじめ、災害対策を熱心に行っているところや、子どもや高齢者の安全安心な暮らしをサポートしている町内自治会も多く存在します。

町内自治会がこうした活動を行っていることは、日頃から活動に参加している人にとっては当たり前でも、そうでない人には意外と知られていないものです。こうした点を積極的に周知することも有効な手法の一つです。

・校区みんなで連携を

未加入者の町内自治会加入促進は、多くの地域に共通する課題です。

各町内自治会が単独で取り組むのではなく、校区内の町内自治会や各種団体が連携して取り組めば、より効果的な運営や課題解決ができる場合があります。



会員を増やすポイント

➤ 引っ越してきた方への説明

新しく引っ越してきた方の中には、地域のことが分からず不安で、町内自治会からの声かけを待っている人もいるかもしれません。

町内自治会の中には、会長と班長の連絡先や、ごみの出し方などを書いた挨拶状を出しているところもあるようです。

班長などが持参して「分からない点は遠慮なく聞いてください」とお話しすると、町内自治会への理解はもちろん、あたたかいつながりがもっと広がっていくでしょう。

➤ 防犯・防災活動のアピール

現時点で活動に関心がない方でも、安全安心な暮らしをしたいと考えている方や、災害への備えについての関心が高い方は非常に多いものです。中でも、大きな災害時には町内自治会による避難誘導や助け合いが不可欠です。そうした役割を丁寧に説明しましょう。

➤ 負担感の少ない加入方法を提示する

経済状況に合わせて、会費の支払方法や金額を選択できるようにすると、加入しやすくなります。金額については、減額や場合によっては免除という選択があります。（会費を減額または免除にする場合には、総会で決定しましょう。）

➤ こども・若い世代を起点

こどもを通じて、保護者や若い世代が地域活動に関わるきっかけをつくることが重要です。子ども会、運動会、夏祭り、餅つき大会、バーベキュー大会など、参加しやすい行事を実施することで、自治会活動への理解を深め、参加者の増加につなげましょう。

➤ 自治会活動の「見える化」

自治会活動は多岐にわたりますが、自治会未加入者には十分に伝わっていない場合があります。活動内容や役割について、積極的に周知することが大切です。町内自治会の中には、ホームページを作成し、自治会活動を分かりやすく発信している事例もあります。

➤ くまもとアプリの活用

一斉清掃などの活動において、くまもとアプリ（主催者ミニアプリ）を活用し、自治会活動のボランティア募集を行うことも有効です。自治会未加入者に自治会活動を知ってもらう機会づくりにつながります。（詳しくはP8）

熊本市ホームページ→
二次元コード
（くまもとアプリ）



熊本市ホームページ→
二次元コード
（くまもとアプリ：町内自治会の団体登録方法）





会員を増やすポイント

▶ チラシを作る際のひと工夫 レイアウト

目を引くような見出しにしたり、文章を短めにする等、より多くの人の目に留まるよう、ちょっとした工夫を試みましょう。

カラー印刷にしたり活動の様子がわかる写真を掲載するだけでも雰囲気が変わります。

連絡先

電話番号だけでなくEメールアドレスやSNS等の連絡手段も明記すると、電話よりも気軽に意思表示をしやすいですし、留守の場合でも対応可能なので、おすすめです。

▶ 国籍や文化の違う人も地域の一員

地域によっては外国籍の方や、日本国籍を取得した方、留学生も暮らしています。

同じ地域の一員ですので、相互理解や交流に努め、地域活動にも参加を呼びかけましょう。

伝え方の工夫を

「外国語なんてしゃべれない」と最初から諦めず、伝える努力をしてみましょう。

ひらがなや簡単な日本語は分かるという方もいらっしゃいますし、分かりやすい日本語やイラストを用いればイメージがきっと伝わります。

また、外国語を話せる方が地域にいないか、普段からアンテナを張っておくことも大切です。

なお、町内自治会加入の多言語パンフレットを作成していますので、ぜひご活用ください。

※熊本市ホームページでダウンロードするか、各区役所で配布しております。

▶ 加入促進ポスターやチラシ活用

熊本市では、町内自治会への加入促進を目的としたポスターやチラシ、リーフレットを作成しています。これらの資料を加入促進等に活用したい場合は、各区総務企画課またはまちづくりセンターまでご連絡ください。また、熊本市ホームページにもデータを掲載していますので、必要に応じてダウンロードの上、ぜひご活用ください。

熊本市ホームページ→
二次元コード
(町内自治会)



←熊本市ホームページ
二次元コード
(多言語パンフレット)

4 持続可能な町内自治会へ 編

町内自治会に入ってもらおう 集合住宅編

・集合住宅は活動充実の鍵

集合住宅では、多くの世帯が同じ建物で生活していることから、建物内でコミュニティが完結し、周辺地域との関係が希薄になりがちです。

集合住宅における自治会加入の形態は、戸建て世帯と同様に各世帯が個別に町内自治会へ加入するケースのほか、マンション全体をひとまとまりとして加入するケース、マンション単独で町内自治会を組織しているケースなど、地域の実情に応じて様々です。

大切なのは、負担（会費など）と受益（町内自治会の取組など）のバランスについて、地域住民に丁寧に説明し、理解と納得を得ることです。今後、町内自治会の活性化を図るにあたっては、集合住宅入居者の地域活動への参加をいかに進めていくかが重要な視点となります。

・意識して情報を発信する

集合住宅入居者の中には、緊急時に助け合える人の存在が重要となる、子育て世帯や高齢者も少なくありません。

しかし、集合住宅の特性上、居住者同士の顔が把握しづらく、また、地域で行われている活動が伝わりにくい傾向があります。そのため、集合住宅に向けては、地域の活動内容や参加の機会について、特に意識して情報を発信を行っていくことが重要です。

・管理会社等との連携

町内自治会加入の案内を、賃貸のマンションやアパートなどの集合住宅において、個々の入居者に直接行おうとすると、多くの時間と労力を要します。

新築の集合住宅の場合などでは、管理会社等から町内自治会へ挨拶に来られることもありますが、事前に町内自治会から管理会社等へ働きかけを行うことも有効です。

管理会社等に対して、町内自治会の役割や重要性、加入することのメリットなどを説明し、入居者に対して自治会加入を案内してもらおうよう協力を求めることも、一つの方法です。



・つながりをつくる一歩

集合住宅の入居者に、安全安心、また快適な暮らしのために行っている町内自治会の活動を実感してもらえよう、積極的に情報発信や周知を行うことが重要です。

多くの集合住宅では、入り口などの地域住民が毎日通る場所に掲示板が設置されています。管理会社等などに協力を依頼し、その掲示板にチラシや自治会加入案内、行事の案内などを掲示させてもらうのも効果的です。

また、子育て世代がたくさん入居している集合住宅に対しては、こども向けの催しや親子で参加できる行事の開催を周知し、それをきっかけに互いの顔が見える関係をつくっていく方法もあります。

・参加しやすい活動やイベントを開催しよう

子育て世代向けのイベント、趣味の会など、参加しやすく、負担の少ない活動から取り組むことで、住民同士の交流を促進することができ、町内自治会に対する印象の向上につながります。

また、時間や体力など、それぞれの都合に応じて参加できるボランティア活動の機会を提供することで、町内自治会活動への参加のきっかけとすることができます。（ボランティア募集には、くまもとアプリを活用してみましょう。）



4 持続可能な町内自治会へ 編

活動の参加者を増やす

・参加者が増えれば活動も充実

「どうすれば、たくさんの方が町内自治会の活動に参加してくれるだろう？」イベント等を行う際に、頭を悩ませた役員の方も多いのではないのでしょうか。

参加者が増えることで、活動の幅が広がり、1つ1つの活動も充実したものになります。また、多くの人に実際に参加してもらい、活動の大切さや面白さを直に知ってもらえれば、“口コミ”によりさらに参加者が集まることも期待できます。

簡単なことではありませんが、住みよい地域づくりを進めていくためには、少しでも多くの地域住民に関わってもらうことが大切です。

・活動内容を工夫する

参加者を増やすためには、まず、地域住民にとって魅力的で、「参加したい」と感じてもらえる活動を行うことが重要です。

そのためには、地域住民が何を求め、どのような活動であれば参加しやすいのかについて、幅広い世代を対象としたアンケートの実施や、会議等の場で意見を募るなどして、把握に努めましょう。

また、参加者が減少している活動や参加者が固定化している活動、地域の実情に合わなくなってきた活動については、地域住民と話し合いながら、内容や方法を見直していくことも大切です。

誰でも気軽に参加

お祭りなどのイベントは地域を元気にするとても有意義なものですが、仕事や家庭の事情、病弱などの理由で行けない地域住民もいます。

そこで、時間帯や家庭状況、身体状況に関わらず、誰でも参加しやすい企画についても検討してみましょう。たとえば、川柳や詩などを募集し入選者を決めるような催しは、誰でも空いた時間に考えて応募できます。



・上手にPRを

「活動を知ってもらう」ことは、参加者を増やすための第一歩です。活動内容が決まったら、しっかりとPRをしましょう。ポイントは、次のとおりです。

▶ みんなに情報を届ける

回覧板や掲示板のほか、地域で掲示できるスペースなどを利用し、できるだけ多くの人の目に触れるようにしましょう。幅広い世代に情報が行き渡るよう、発信方法を工夫することが大切です。

▶ 直接声かけを！

町内自治会活動に普段あまり関わっていない地域住民は、きっかけがなければ参加しづらいものです。顔見知りや日頃あいさつを交わす地域住民に対しては、直接声をかけることが効果的です。「あの人に誘われたから参加してみよう」と思ってもらえるようなきっかけづくりを意識しましょう。

▶ 参加しやすくなるよう工夫

興味や関心を持っていても、初めて参加する人は、「服装は?」「何かいるものは?」「所要時間は?」「申し込み方法は?」など、分からないことが多くあります。だれでも安心して参加できるよう、案内文やチラシには、日程、集合場所、開始・終了時刻、主な内容、参加費、問い合わせ先などを分かりやすく記載しておきましょう。

また、「だれでも参加できます」「初めての方、歓迎」といった言葉や、簡単な地図を添えることで、新たに関心を持ってもらえる場合もあります。

・参加者には感謝を伝える

人から感謝されたり、「ありがとう」と声をかけられたりすると、うれしい気持ちになるものです。一言二言であっても、参加してくれた地域住民に対して感謝の気持ちを伝えることで、「参加してよかった」「また力になれることがあれば手伝おう」と感じてもらえるのではないのでしょうか。

まちづくりの輪は、こうした小さな気配りの積み重ねによって、少しずつ広がっていきます。

・くまもとアプリを活用しましょう

くまもとアプリは、平時と災害時の両面で活用できる熊本市公式アプリです。災害時には避難所受付などに活用され、平時には地域活動やボランティア活動への参加促進に利用することができます。

町内自治会は、くまもとアプリに登録団体として登録することで、主催者ミニアプリを活用し、地域行事や清掃活動、防災訓練などのボランティア募集を行うことができます。募集はアプリ上で行われるため、校区内に限らず、校区外の人がスタッフとして参加してくれる可能性もあります。

また、くまもとアプリを通じて活動に参加した人には、ボランティア活動証明書を発行することができるほか、インセンティブとなるポイントも付与されます。これにより、学生や現役世代など、これまで自治会活動に関わる機会の少なかった人の参加につながることも期待されます。

このように、主催者ミニアプリを活用することで、担い手の確保や参加者の裾野拡大、自治会活動の見える化を図ることができます。

➤ 主催者ミニアプリの活用（事例）

（事例1：夏祭りの人手不足解消に向けたボランティア募集）

- ・ある町内自治会で、毎年夏祭りを開催していましたが、年々、若い世代の参加が減少し、準備や当日の運営を担う人手不足が課題となっていました。
- ・くまもとアプリの主催団体に登録し、夏祭りの運営ボランティアをアプリ上で募集したところ、校区内外からボランティアの応募があり、当日の人手を確保することができました。これまで自治会活動に関わりのなかった若い世代の参加もあり、自治会長からは「地域活動へ関わるきっかけづくりになった」との声がありました。

（事例2：一斉清掃活動で若い世代・学生の参加を実感）

- ・ある町内自治会では、一斉清掃活動への参加者が固定化し、高齢化が進んでいることに不安を感じていました。
- ・くまもとアプリの主催団体に登録して、ボランティア活動として参加者を募集したところ、当日は、高校生や大学生など若い世代の参加が見られました。また、ボランティア活動証明書を発行され、学生にとっても参加しやすい仕組みとなり、自治会の方も「これは使える」と手応えを感じていただきました。

・くまもとアプリを活用しましょう

➤ 町内自治会が主催者ミニアプリを利用するまでの流れ

① 「くまもとアプリ」をダウンロード

主催者ミニアプリは単体では利用できないため、最初に熊本市公式の「くまもとアプリ」をスマートフォンにダウンロードする必要があります。くまもとアプリは、App Store または Google Play から入手できます。



↑ iPhoneの
方はこちら



↑ Androidの
方はこちら

※ 本アプリはNFC機能付きのスマートフォンで利用できます。

② 主催団体（町内自治会）として登録申請

主催者ミニアプリ上で、主催団体登録申請を行います。申請時には、団体名（町内自治会名）、活動内容（清掃活動、防災訓練、地域行事など）、代表者および連絡先を入力します。

③ 熊本市の承認後にボランティア募集が可能

申請内容について熊本市が確認・承認を行います。承認後は、主催者ミニアプリを通じて、ボランティア募集の作成、参加者の管理、ボランティア活動証明書の発行を行うことができます。

詳しくは、下記のくまもとアプリのホームページを確認してください。

主催者ミニアプリの団体登録に関する相談・問い合わせ先は、各まちづくりセンターまたは下記までお願いします。
くまもとアプリ運営事務局（地域政策課）
電話：096-328-2477
受付時間：平日 9時00分～17時00分
（土日祝日・年末年始を除く）

熊本市ホームページ→
二次元コード
（くまもとアプリ）



4 持続可能な町内自治会へ 編

「みんなで」から「後継者へ」

・少しずつ業務を分担し、喜びや達成感を分かち合う

活動を行う際、「手を煩わせるのは申し訳ない」と遠慮して、会長や役員だけで対応してしまいがちです。しかし、負担の少ない内容からでも、地域住民に協力をお願いしてみることが大切です。役割を分担することで、一人ひとりの負担が軽減されるだけでなく、活動をやり遂げたときの喜びや達成感を共有することができます。こうした積み重ねが、「みんなの町内自治会」という意識につながっていきます。

・イベントの時にスカウトし、活動を未来につなぐ

町内自治会の活動を未来につなげていくためには、後継者を見つけ、育てていくことが重要です。なかには、新しい人材を発掘するため、日頃から様々な場面で情報収集を行っている役員の方もいます。

特に、夏祭りなどの大きな行事は、多くの人が協力して活動するため、役割を担ってもらえそうな人を見つける良い機会となります。



・後継者へは早めの引継ぎを

後継者が見つかったら、早めに少しずつ引継ぎを行うことが大切です。

交代の時期が近づいたら、後任の方も会議に同席してもらうなど、運営や活動が滞ることがないように配慮しましょう。また、役職ごとにファイルを作成し、日頃の活動や懸案事項の記録、参考資料などを整理しておくことで、後継者も安心して活動を引き継ぐことができます。



後継者づくりのポイント

➤ ルールづくりも効果的です。

町内自治会長の任期を1年や2年と定めているところもあります。定期的な役職交代により自治会が活性化し、住民同士の協力が促進されるとともに、複数の人が自治会長を経験することで、町内自治会への理解が深まります。その結果、次世代リーダーの育成にも繋がる効果も期待できます。



役員の担い手不足を解消した事例

- 自治会活動や行事の見直し
夏祭りを秋祭りに変えたり、負担の大きい行事を別の形にした自治会もあります。無理のない内容にすることで、役員や協力者の負担が減り、役員として参加しやすくなりました。
- 役員だけで抱え込まない
会長や役員だけで作業をせず、軽い作業から地域住民に手伝いをお願いしました。「少しだけならできる」という人が増え、次の担い手につながりました。
- 会議や活動の時間を工夫
仕事をしている人が参加しやすいよう、会議を夜に開くようにしました。時間を変えただけで、現役世代の参加が増えました。
- 行事の中で次の担い手確保
清掃活動や行事でよく手伝ってくれる人に、声をかけました。実際に活動を経験した人は、役員を引き受けやすい傾向があります。
- 活動内容を分かりやすく
自治会が何をしているのか、どんな手伝いが必要なのかを、チラシや掲示板で分かりやすく伝えました。内容が見えることで、「それならできそう」と協力してくれる人が増えました。
- 相談しやすい雰囲気づくり
会議や集まりの場で、意見を否定せずに聞くよう心がけました。「話を聞いてもらえる」と感じることで、少しずつ関わろうとする人が増えました。





引継ぎ書を作ろう～だれでもできる体制づくり～

「役員になったものの、何をすればよいかわからない」という事態を避けるためには、各役員の仕事をあらかじめ整理し、マニュアルとしてまとめておくことが有効です。特定の人しか分からない業務を少しずつ減らし、だれが担当しても困らない体制を整えていきましょう。また、夏祭りなどの行事についても、次に担当する人のために記録を残しておくことが大切です。準備の流れや当日の様子に加え、気づいた課題などを書き添えておくことで、次の運営や今後の活動の参考になります。

記録に残しておく事柄（催しの場合）

- 準備物とその数量
- 協力者とその役割
- 作業手順や所要時間
- 反省点
- 担当者の感想や協力者・参加者の声
- 担当者名



必要に応じて写真も残しておくとうっかりやすいですね♪

・後継者が活動しやすい環境づくり

町内自治会活動を持続可能なものとするためには、負担軽減のための体制づくりが大切です。



後継者の負担を軽減するポイント

➤ “できる範囲で活動” という共通認識

例えば、「仕事や家庭を最優先とし、町内自治会の活動はできる範囲で行う」といった考え方が町内自治会に共通認識として根付いていれば、誰もが無理なく活動しやすくなります。その結果、「役員になる＝大きな負担になる」というイメージの見直しにもつながります。

➤ 柔軟なスケジュールの工夫

あらかじめ年間のスケジュールを共有し、予定を立てやすくすることや、会議日程に参加しやすい曜日や時間帯に設定することも大切です。こうした工夫については、役員経験者が中心となってサポートし、安心して役割を引き継げる体制を整えていきましょう。

➤ 初めて役員になった方への配慮

役員になるのが初めての方に対しては、環境に溶け込みやすいよう、思いやりをもって接することが大切です。また、お願いする役職については、「防犯」や「環境」など、役割やテーマが分かりやすいものとするなど、無理なく取り組めるような配慮を心がけましょう。

4 持続可能な町内自治会へ 編

町内自治会の合併について

・ 役員のなり手がいない、町内自治会の存続が心配

各町内自治会では、事業の見直しや若者が参加しやすい方法の工夫などを通じて、担い手の確保に取り組むことが重要です。しかし、人口減少や少子高齢化、労働力の高齢化が進む中で、次の役員のなり手が見つからない、町内自治会活動への参加者が少ないなど、単独で組織を維持していくことが難しくなっている町内自治会も見られます。

このような課題を解決する手法の一つとして、選択肢に挙げられるものが「町内自治会の合併」です。合併により、双方の人材を合わせることで担い手の確保がしやすくなるほか、活動範囲や役割の共有など、さまざまな面で課題解決が期待できます。一方で、活動範囲が広がることによる負担の増加といったデメリットが生じる場合もあります。「町内自治会の合併」は、双方の同意を前提として進める必要があり、町内自治会の役員同士で十分に話し合いを行い、慎重に検討していくことが大切です。

また、それぞれの町内には地域事情や住民感情があることから、日頃からの信頼関係の積み重ねが、円滑な合併を進めるための重要なポイントとなります。

・ 町内自治会の合併のメリット・デメリット

| メリット | デメリット |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 人材の増加 (担い手不足の解消)・ 活動量が増え活発になる・ 町内自治会費等の財源が増える・ 地域のつながりが拡大する・ 合併し、地域への関心の高まりが期待される | <ul style="list-style-type: none">・ 活動量の増加（負担増）・ 経費が増える・ 町内自治会の活動範囲が広がる |

・ 町内自治会合併の進め方

まずは、校区自治協議会や自治会連合会に現在の状況等について情報を共有していただくことをお勧めします。

また、お住まいの区役所総務企画課やまちづくりセンターにご相談ください。地域の現状と課題を踏まえつつ、寄り添いながら解決に向けて進めていきます。

〈参考〉

町内自治会の合併での調整事項

- ・規約の整理
目的、名称、総会や役員会などに関する事項、役員等に関する事項、資産に関する事項など
- ・規約以外の整理
組織の設置、委員会等組織（子ども会、敬老会、まちづくり委員会などの各種団体）、会費とその徴収方法など
- ・予算決算、事業に関する整理
- ・所有財産の整理
- ・地域の慣習的な事項の整理（神社仏閣等の維持、お祭りなど）

具体的な合併手続き（例）

- ・合併のために調整事項の協議が終われば具体的な合併手続きに入ります。
 - (1) 該当町内自治会による協議書（案）の作成
 - ・合併の趣旨（設立目的）、合併の効力発生日、新設合併又は吸収合併の明示
 - ・規約事項
 - ・新たな組織体系
 - ・協議事項のうち特に重要な事項
 - (2) 会員への周知
 - ・協議書（案）を確定し、会員に周知する。
 - (3) 総会の開催
 - 【新設合併】
 - ・それぞれの町内自治会で協議書（案）の承認決議と解散議決を行った後、協議書を締結し、協議書に基づき新たな町内自治会において設立総会を開催
 - 【吸収合併】
 - ・受渡町内自治会で協議書（案）の承認決議と解散議決を行い、受入町内自治会で協議書（案）の承認決議と合併議決を行った後、協議書を締結
 - ・受入町内自治会の総会では必要に応じて規約を変更

